

ハラスメントのない

みんなの快適な

学 習

教 育

研 究

環 境 の た め に

Vol. 3 | 大学で起こる事案の解決方法を考える



特 定 非 営 利 法 人
アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク
Network for the Action against Academic Harassment
N A A H

はじめに

皆さん、こんにちは。NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク(NAAH)です。当会は2001年に設立して以来、大学等、高等教育研究機関におけるハラスメントをなくすことを目的に活動をしています。具体的には全国の大学生、大学院生、大学教職員から寄せられる相談活動、防止啓発研修や教材(DVD、動画、冊子など)の制作を行っています。

その活動のひとつが『令和時代の教員育成プロジェクト』です。ハラスメントのない快適な教育環境をつくるために、現職の教員及び次世代の教育を担う学生を対象としてハラスメント防止・相談対応などを収録した教材を作成し、ホームページやYouTubeで公開しております。

本書では、プロジェクト3年目として「大学でよく起こる事案」について、5つの事例を通して考えてみたいと思います。なお、これらの事例はいくつもの似たような話をひとつにまとめたもので、実際に起こった事案をそのまま掲載しているわけではありません。

アカデミック・ハラスメント、学校におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの相談を長年受けてきた大学教員、相談員、そしてハラスメント防止啓発教材を作成している教材作成者の意見を収載しています。

本書が、“学生、教員、職員、相談員－それぞれの立場で、ハラスメントの防止・解決のために何ができるのか”を考えるキッカケになりましたら幸いです。

NAAH 令和時代の教員育成プロジェクト一同

本書と一緒にご覧いただける動画

「令和時代の教員育成Vol.3 ー快適な教育環境をつくろう！ー」をYouTubeにて公開しております。

是非、右のQRコードからご覧ください。

動画はコチラ



目次

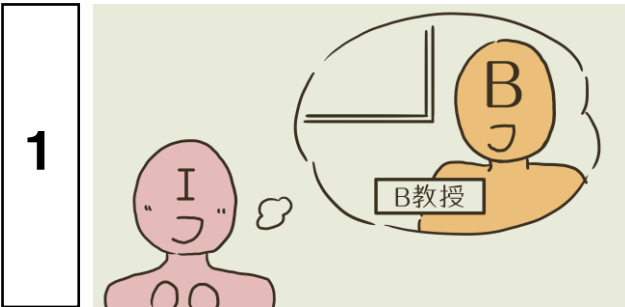
事例1 配属されたゼミでの先生の指導についての悩み 学生が相談しやすい環境づくり	p.2 p.7
事例2 ある教授の悩み 2Rコミュニケーションの推進	p.8 p.13
事例3 課題レポートについての悩み	p.17
事例4 授業中に質問にすぐに返答できない学生さん	p.20
事例5 口に出して返答はできるが、文章化がとても苦手な学生さん	p.24
NPO NAAHでの取り組みのご紹介	p.27





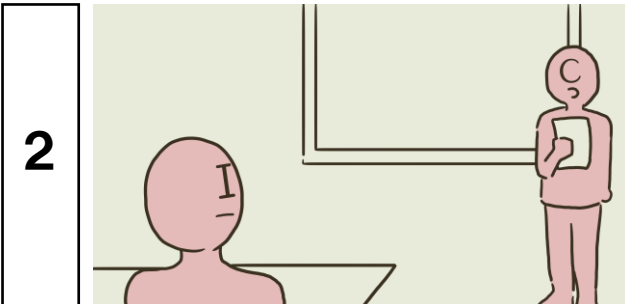
事例1

配属されたゼミでの先生の指導についての悩み

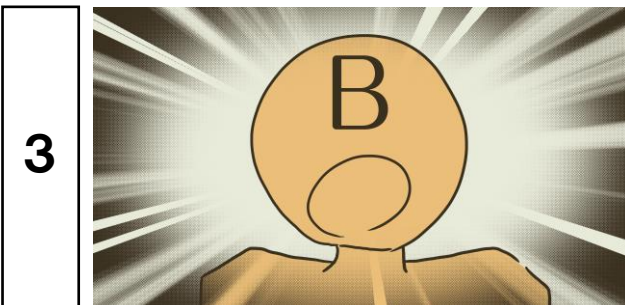


学部のゼミ配属は希望を第1希望から記入し成績順で決定されます。

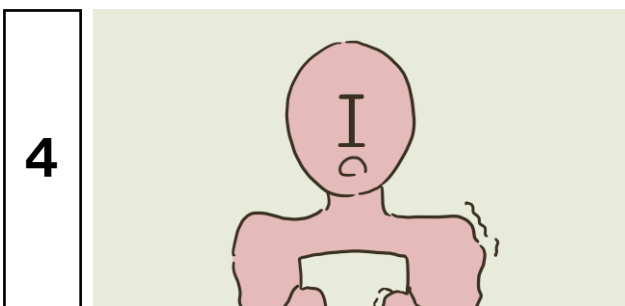
B教授の講義は丁寧で理解しやすく、以前より関心があるテーマだったので私は第1希望で配属が決まり研究を楽しみにしていました。3年生の後期は週1回のゼミで4年生での卒業研究に向けての準備で、順調に進んでいました。



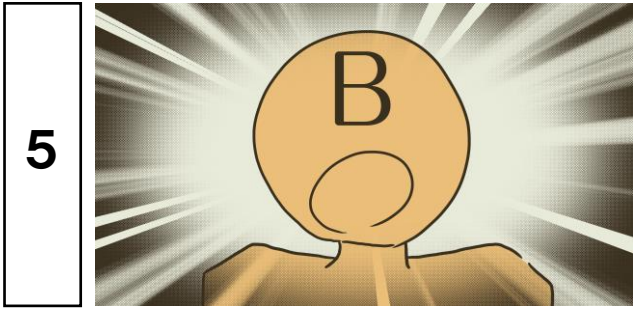
4年生になり卒業研究が始まり、毎週のゼミでは2名ずつ、それぞれの研究の進捗状況を発表することになっていました。



ある日C君が発表するとB先生は突然大きな声で「誰がこんなふうにやれと言った！指導したことと違うじゃないか！」と怒りだしました。



次は私の発表だったけれど、B先生に「お前はきちんとやれよ」と言われ、こわごわ発表しました。



B先生の指導通りにしたものであったのに、「Cも、お前も、言われたことができないのか」と2時間にわたって怒鳴られました。



前回の発表では私もC君も「よく出来ている。このまま進めてほしい。」とB先生にほめられたのに、



突然、叱責されて、訳がわからなく、何ができていなかったのかも理解できずに、二人とも黙って震えているだけでした。

【コメント】

事例1 配属されたゼミでの先生の指導についての悩み

ハラスメント防止啓発教材作成者

酒井 理沙子

◆ 怒鳴る、2時間にわたっての叱責は指導？

どんなミスをしていたとしても、怒鳴る、2時間にわたっての叱責は明らかに教育上不適切です。理不尽に怒られたショックで、その後に言われた具体的な指導も全く頭に入りません。

◆ 学生はどのように感じているのでしょうか？

事例の学生は第一希望で入り、研究を楽しみにしていましたが、この一件により、ショックと恐怖で研究どころではなくなってしまいました。**既に学生は頭痛や腹痛、睡眠障害など、身体に症状が現れていると思います。**

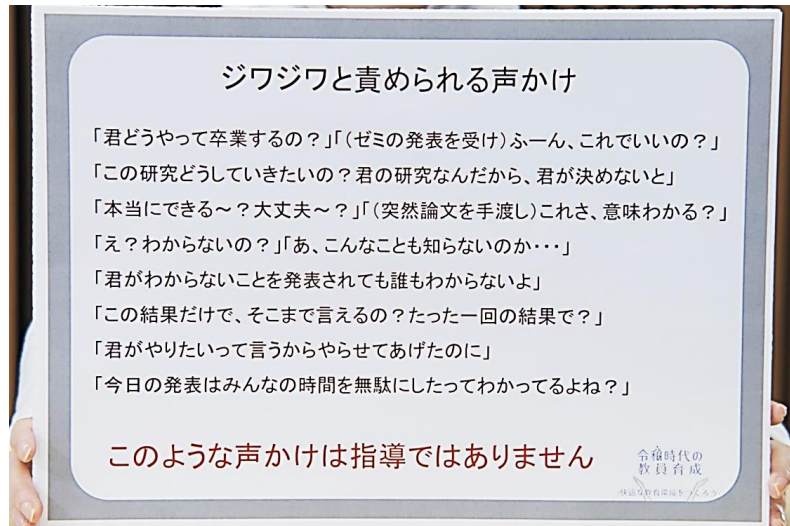
その日の機嫌によって教員の言うことが変わる、前回の指導を覚えていないといった事例は残念ながら分野を問わず多く見られます。多くの事例では能力否定や全否定の言葉が指導に混ざっており、教員の言葉を指導だと感じてしまいます。そのため、**学生は「できてない自分が悪いんだ」と自分を責めてしまいます。**人を傷つける言葉は指導ではありません。こうした環境では、やる気のある学生であっても潰れてしまいます。**学生は常に先生の顔色を気にして、また怒られるかもしれないとビクビクし、自分の考えが言えなくなります。そして、研究が段々と手につかなくなり、調査や実験も滞ります。**



◆ 怒鳴る、大声で言わなければOK？

叱責は大声で責めるだけではありません。最近はこちらの言葉でジワジワと学生を追い詰める先生もいます(図1-1)。

図1-1. 教員から発せられるジワジワと学生を責める声かけの具体例



学生に自分で考えさせようとしての声かけとしても適切ではありません。特に、学生が思うように作業ができない時、「君、このままどうやって卒業するの?」と言われると絶望に追いやることになります。**指導は具体的にどこが問題でどこを改めたらいいのかを教えなければいけません。**

◆ ちょっと怒っただけ、たった一回だけでそんなに言わなくても・・・

大袈裟など仰る先生方もおられると思いますが、学生への影響はこれに留まりません。事例の学生はB教授と二度と関わらなくなった後も、思い出しては怖くなり、自分が悪かったのかと、**心の傷は長く残ります。**また、こうした事例で病気になったり、最悪の事態を招いたということもありました。**人の命より大切な研究はありません。**

◆ 学生は大学に助けを求めています

このようなゼミ、研究室では、恐らく毎年潰れる(※)人がいると思います。大学の方でも認識はしているのですが、相談に行くと「あの先生は教育熱心だから、つい熱が入って～」と仰る方がいます。**では、熱の入った指導で毎年潰れる学生がいるのは仕方がないと済ませて良いのでしょうか。**学生にはどうしようもできない問題です。**しっかり大学として問題に向き合ってほしいと思います。**

※潰れる・・・うつ状態になり、学校に来られなくなったり、退学してしまうこと

◆ この事例を見てドキッとしたら・・・

この事例を見て、ドキッとした先生方がいらっしゃいましたら、**冷静に指導をふりかえるために、是非指導記録をつけてください。**

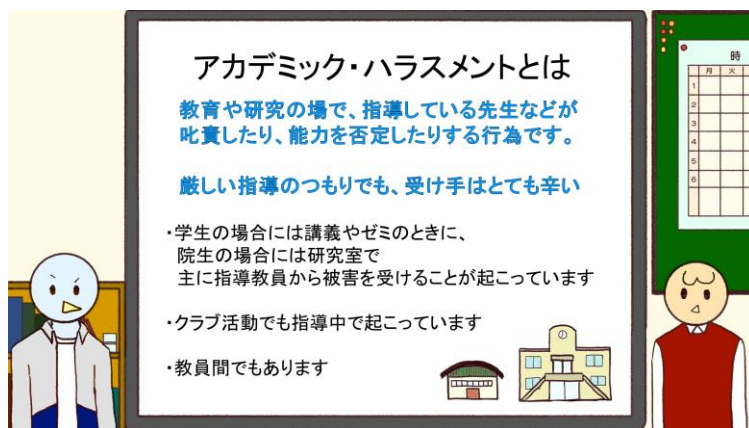
◆ こんな時、学生はどうしたらいい？

学生の皆さんは早めに相談に来ていただきたいと思います。しかし、「ハラスメントかどうかわからない」、「相談というとハードルが高い」と言う方も多いと思います。最近元気がなくて、話を詳しく聞いてみたら、実はハラスメントにあっていたということもあります。

【参考】 どこに相談に行ったらいい？ 相談に行ったら何を話したらいいの？

「どうして相談するの？」、「どこに相談に行ったらいいの？」、「相談室に行ったら、どのように話をしたらいいの？」という疑問については、YouTube動画『令和時代の教員育成Vol.1 快適な教育環境をつくるために』をご覧ください(図1-2)。また、併せてご覧いただける冊子(PDFファイル)を公開しております。相談に行くのが不安な時は動画を相談員の方と一緒に見てから話し始めたり、冊子を持参して相談に行くといいかもしれません。

図1-2. YouTube教材『令和時代の教員育成vol.1 快適な教育環境をつくるために』のご紹介



YouTube教材 『令和時代の教員育成 Vol.1 快適な教育環境をつくるために』
YouTubeにて無料でご覧いただけます。

URL : <https://youtu.be/GjZ0pMmN4so>



教材と一緒にご覧いただける冊子も併せてご覧ください。

『ハラスメントのない みんなの快適な学習・教育・研究環境のために Vol.1』
URL : http://naah.jp/index/wp-content/uploads/2021/11/minnano_1.pdf



学生が相談しやすい環境づくり

ここでは、学生が相談しやすい環境づくりの取り組みを挙げます。

① 学生向けのハラスメント研修の実施

学生がハラスメントに気づくためには、ハラスメントについて知る機会が必要です。

② ハラスメント相談の可能性を視野に学生の話聞く

学生の話をするときは、学生相談室やカウンセリングルーム、先生方にもハラスメント相談の可能性もあるかも知れないというアンテナを張ってほしいと思います。

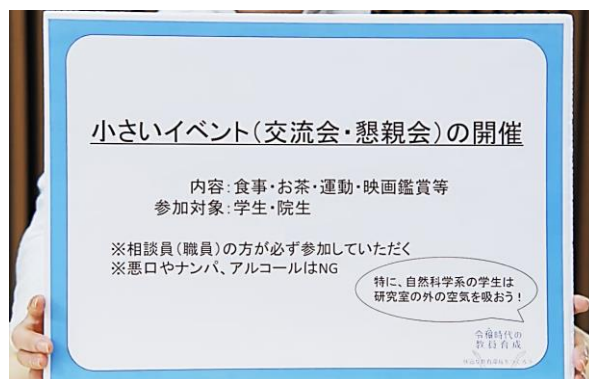
③ 日常的に小さなイベントの開催

普段から学生が自由に話せる場、小さなイベントを設けていただきたいと思います(図1-3)。内容は食事・お茶・運動・映画鑑賞等です。学生が参加しやすいように、悪口やナンパ、アルコールは禁止していることを予め学生に伝えましょう。このイベントは学生がフラッと立ち寄れると言うのが重要です。特に自然科学系の学部、大学院では研究室配属前後から研究室の外に出る機会を設けていただきたいです。このような場に相談員の方が必ず一人はいて下さると、学生は初対面ではなくなるので相談しやすくなると思います。また、このような場で同級生と話すと、研究室で起きてることはちょっと変かもしれないと気づき、早めの相談に繋がります。

④ メールで予約、電話で相談

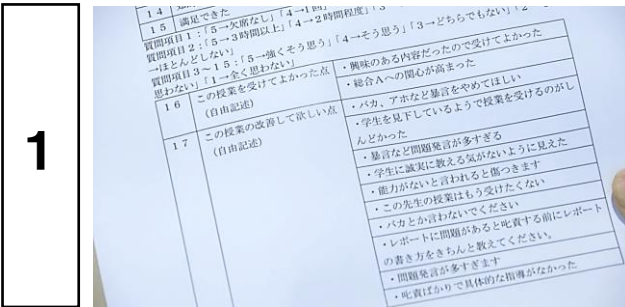
ハラスメント相談は窓口に行くところを人に見られると嫌、すでに学校に行けない場合もあるので、メールで予約、まずは電話で相談できるとありがたいです。

図1-3. 学生が自由に話ができるイベントの例





事例2 ある教授の悩み※



井上先生(仮名)は大学の授業アンケートの改善してほしい点に、「バカ」「アホ」など暴言をやめてほしい。「学生を見下しているようで授業を受けるのがしんどかった。」と書かれてしまいました。



振り返ってみると、井上先生は授業中に学生のレポートを見て「大学生の書くレポートじゃない。」「親の顔が見たい」と注意したことがありました。



しかし、井上先生は「最近授業中に注意をただけで、「その発言はアカハラだ」と言われるけど、「アホや」くらい口癖やからな」と思っています。そして、「何を言ってもアカハラだと言ってくる。こんな言われたら、怖くて注意できない」「どうしたらいいのか」と悩んでいました。



そこで、井上先生は森下先生(仮名)に「学生に向かって授業中に「アホや」言うたらアカハラになるんでしょうか」と相談してみました。すると、森下先生は話し始めました。「私は関西の出身ではないので、今でも「アホ」と言われると嫌な気がしますね。「アホ」「バカ」「能力がない」という言葉を教員から言われたら、学生は嫌な気分になるだけでなく、度重なると自信をなくしていくように思います。」

※ この事例は、当会が作成したDVD教材『なくそう 防ごう 気づこう アカデミックハラスメント 2016年版』の「第2話 井上教授の悩み」の内容です。なお、登場人物の氏名は実在の人物とは一切関係ありません。

5



「私が学生の時に「アホ、バカ、能力がない」とよく言われる先生がいました。私はその先生の方野に興味がありましたが、だんだんと興味が薄れてきて、結局、別の分野に進んだのです。私の同級で、その分野に進んだ友人は、だんだんと元気がなくなってきて。そうすると、先生は「バカに教える時間をもったいない」「ボクの研究室のレベルを下げてる」などと叱責し、彼は結局中退しました。あれはアカハラでした。」

6



井上先生は「私の場合は軽く「アホやなあ〜」と言っているくらいで、それでもアカハラになるんでしょうか？」と尋ねました。森下先生は「学生が授業評価アンケートで「やめてほしい」と書いているのでしょうか？」と伝えると、井上先生は「嫌がっているのを続けてはいけませんね」と納得し、「もし口癖で言っていたら、注意して下さい」と森下先生に言いました。

7



井上先生は授業前に「今日からはアカハラになるような口癖はやめよう。気を引き締めて、絶対、言わんとこ」と強く決意したのでした。

【コメント】 事例2 ある教授の悩み

中央学院大学 学長 大村 芳昭



◆ 何を言ってもアカハラになる？

井上先生は、授業アンケートに「暴言をやめてほしい」と書かれて、「何を言ってもアカハラだと言ってくる」「怖くて注意できない」と悩んでいたようですが、残念ながら、ご自分の発言の影響力に対して自覚が足りないように思います。少なくとも「大学生の書くレポートじゃない」「親の顔が見たい」というのが**普段の口癖だとは考えにくい**ですし、**学生がそういった発言で傷ついている事実を直視しないと、問題の解決にはならないのではないのでしょうか。**また、**そういった発言は教育的効果がないだけでなく、授業の雰囲気**を著しく害するもののように思います。

◆ 本当の「解決」とは？

その後、井上先生は森下先生からの助言により、「嫌がっているのを続けてはいけませんね」と納得し、「アカハラになるような口癖はやめよう」と決意したとのことですが、それ自体は確かに大きな進歩であると思います。そうやってご本人が発言を改めれば、以後のハラスメントを防止することができるからです。**ただ、本当は、井上先生の反省が学生に伝わって、授業の雰囲気が改善されることこそが本当の「解決」だと思います。**



◆ ハラスメントを防ぐ取り組みも大学全体で取り組む必要があります

ところで、個々の先生方が自分の言動を反省して、個人的に解決していくのには限界があります。**大学は個々人の教員が独立して教育するのではなく、大学が行う教育を教員が分担する場ですから、授業中のハラスメントを防ぐ取り組みも大学全体で取り組む必要があるはず**です。

大学として以下の取り組みが求められるのはもちろんのことです(表2-1)。

表2-1. 大学に求められるハラスメント防止の取り組み

- ハラスメントに関する宣言
- ハラスメントガイドラインの制定
- ハラスメント防止組織の整備
- ハラスメント研修会の実施 など

◆ ハラスメントはコミュニケーションが円滑にいかないことで起こる

ただ、さらに言えば、そもそもアカデミック・ハラスメントというのは、教員と学生、あるいは教員と教員、学生と学生間のコミュニケーションが円滑に行われないうことで生じる問題だと思います。大学がそのことに気づいて、いわゆる**2Rコミュニケーション**(詳細は13ページに記載)、**二つのRのコミュニケーション**、**R**というのは、**Respectful**の**R**とそれから**Reasonable**の**R**ですけれども、**お互いを尊重し、そして道理的なコミュニケーション**です。そういったコミュニケーションを進めることによって、コミュニケーションの改善を図るということがハラスメントの起きにくい環境をつくる。そういうことに繋がるのではないかと思います。

◆ 具体的にはどのような取り組みをしたらいいのでしょうか？

また、例えば、このNAAHで作っている『ぺんぎん先生とヤギくん』のような、とても**気軽に観ることのできる教材を見たい時にではなく、いつでも見られるような状況におく**、例えば大学の常設のスクリーンに流しておくと言うような取り組みであるとか、堅苦しく、しかもやる気のある人しか来ないようなハラスメント研修会ではなく、**もっと日常的に気楽に参加できよう教員の意見交換会**、あるいは**学生が手軽に参加できるようなお茶会**だとか、そういったような日常的な取り組みを重ねていく。そのことがハラスメントの防止に繋がるのではないかという風に思います。

【参考】アカハラ防止啓発動画『ペンギん先生とヤギくん』

当会のYouTubeチャンネル『NAAH教材チャンネル』では、どなたでもご覧いただけるハラスメント防止啓発動画を無料配信しております。そのひとつである『ペンギん先生とヤギくん』シリーズは、1話が約3分と短いことが特徴です(図2-1)。多数の教育機関で教職員向けのハラスメント防止研修、また学生への研修、ガイダンスや授業の中にご利用いただいております。教育機関などでご使用の際は公式ホームページよりお問い合わせ下さい。

図2-1. アカハラ防止啓発動画『ペンギん先生とヤギくん』のご紹介

大学で悩んでいる“みんなの同級生ヤギくん”と“ちょっとコミュニケーションが不得意なペンギん先生”を通して、どうしたらお互いに健康で充実した日々を過ごせるのかを考えてみませんか。(1話あたり約3分。全108話)

ペンギん先生とヤギくん



大学で起こるハラスメント編

© 2020 NPO NAAH

是非、右のQRコードより教材をご覧ください。

URL : <https://www.youtube.com/playlist?list=PLKWnMTNfBwuZIB0lvEtk0QEPTRUdDg8>



活用例：教職員向けのハラスメント研修、相談員研修で視聴、
学生向けのハラスメント研修、ガイダンス、授業で視聴、
学内の常設スクリーンでの上映、学内ホームページ、ポスターや配布物での紹介など



2Rコミュニケーションの推進*

respectful dialogue

相互を尊重した対話



reasonable manner

道理をわきまえた行動

さて、ここで2Rコミュニケーションについて説明いたします。**2Rコミュニケーション**とは、**Respectful dialogue(相互を尊重した対話)**と**Reasonable manner(道理をわきまえた行動)**のことです。この2Rコミュニケーションをとりましょう。これを言い換えれば、**相手を尊重しましょう**ということです。

人にはそれぞれ長所・短所、得意・不得意があるものです。成育歴も違いますし、考え方も異なります。学生さんであっても、小中高校でどのような経験してきたのか、負い目がある人も少なくありません。そうした中で、大学に入学し「君は今まで何を勉強してきたの?」と言われたら、どう受け取られるかを考えてコミュニケーションしましょうということです。**みんな同じ100点満点の型にはまった人を作ること**を目標にするのではなくて、**それぞれの個性を尊重しながら、相手を傷つけないように配慮する**ということです。

また、無自覚でハラスメントをしている人というのは、自分のルールを持っていて、また自分のモラルも持っていて、それを相手に押し付けているものです。例えば、課題の提出が遅れたとき、「反省文を提出しなさい」「反省文はA4のレポート用紙にぎっしり書かれていなければ受け取らない」ということを求めてきたりします。課題の提出が遅れることは、よくありません。では、**どんなふうにしたら、その状況をかえていけるのかを考えていただきたい**のです。

大学では“教職員にとっては当たり前のことが、学生にとっては初めて”ということが多いものです。例えば、履修登録、教員にメールを送る、レポートを書く、卒業研究や卒業論文の執筆などです。学生が初めてレポートを書く時に書き方もわからないまま書いたら、教員からすれば「これは何?レポート?」と突き返されてしまったりします。こういうことになると、学生さんは大変落ち込んでしまうことになります。それゆえに、**教員は自分にとっては当たり前のことが、学生にとっては当たり前ではない**ということを理解していなければなりません。

自分の言動が相手にどう受け取られるかを考えて行動することは大切です。

*【参考】 Kumiko, O. *The Annual Report of Education Psychology in Japan*, Vol. 54, 236-258 (2015).

学生や院生に対して、腹が立つことがあっても(それが正当な怒りであっても)**激しい言葉を使ってはいけません**。2Rコミュニケーションとは、**具体的には自分の感情を出す(怒鳴る、物を投げつけるなど)ではなく、相手が受け止めて改めることのできる指導の仕方をとること**です。ただ、反対に相手のご機嫌をとろうとしてもいけません。きちっとした指導者としての自分を見失わずに、どう対応したらいいのかというコミュニケーションのあり方を具体的に身の回りにある事例を通して、考えておいていただきたいと思います。

【参考】DVD教材『アカハラといわれなかったために-コミュニケーション・スキル・アップの実際-』

2Rコミュニケーションというのは、個人の性格を変えるというのではなく、怒鳴ったり、威圧的な態度をやめたりしたら、印象が変わるということで、そうした実践をやってみましょうということです。その実践のためのDVD教材を販売しております(図2-2)。詳しくは公式ホームページよりお問い合わせください。

図2-2.『アカハラといわれなかったために-コミュニケーション・スキル・アップの実際-』のご紹介

この物語の主人公 月 輝夫教授(仮名)は、暴言・叱責は指導上必要と考えている一人です。ただ、数人の院生がそれに耐えきれず彼の元を離れたり、うつ状態に陥ったりしたことで、少し反省もしています。

でも、今日、講義中に教室から出て行こうとした学生にキレてしまいました。



アカハラが学生・院生に与える精神的苦痛など負の影響を認識し、アカハラをしないために、コミュニケーション・スキルを磨くことから始めましょう。(約8分)

◆ いくつかの事例で2Rコミュニケーションを考えてみましょう

以下の2つの事例で2Rコミュニケーションについて考えてみましょう。ぜひ、研修等のグループワークの題材としてもご活用ください。

事例A.
授業内のグループワークで、一人グループに馴染めていない学生がいました。仕事の場合でも同僚間とのチームワークが大切なので、教員は一人だけ別室に呼んで「暗い表情だと、他の学生も声をかけにくいから、もっと明るく！」と学生にアドバイスをしました。
【学生はどのように感じるでしょうか？】
【教員は言動をどのように改めたらいいでしょうか？】
事例B.
学会発表に向けて院生の発表練習を行っていました。その院生は初めての学会発表で緊張しており、まとまっていない原稿を必死に読み上げていました。発表後、教員は「全然ダメ。意味がわからない」「あと一週間しかないのに、君、どうするつもり？」「このままでは、私の指導能力が疑われる」「研究室のレベルを下げるような発表はしないように」と言い、教室から出ていきました。
【院生はどのように感じるでしょうか？】
【教員は言動をどのように改めたらいいでしょうか？】

◆「いくつかの事例で2Rコミュニケーションについて考えてみましょう」の回答例

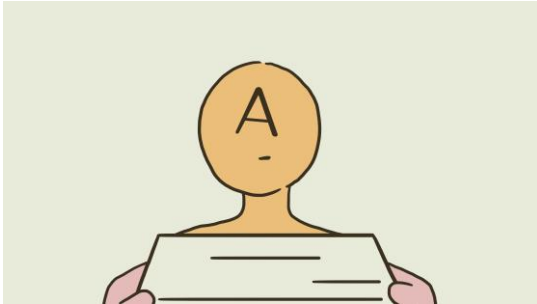
この回答は一例ですので、参考としてご覧ください。

事例A.
授業内のグループワークで、一人グループに馴染めていない学生がいました。仕事の場合でも同僚間とのチームワークが大切なので、教員は一人だけ別室に呼んで「暗い表情だと、他の学生も声をかけにくいから、もっと明るく！」と学生にアドバイスをしました。
【学生はどのように感じるでしょうか？】
まず、学生にとって教員から呼び出されるのは「自分は何か悪いことをしたのだろうか」と緊張するものです。これは教員と学生とのパワーバランスが背景にあることから生じます。次に、先生の声かけですが、学生には「自分はネクラなので、人から好かれたいと言われた」と受け取られかねません。「明るく！」というのは先生から見た学生の「あるべき姿」を求めてしまっているのではないですか。
【教員は言動をどのように改めたらいいでしょうか？】
その学生だけに声をかけると「気を遣わせてしまい、申し訳ない」、また逆に「なぜ、自分だけ声をかけられたのか」と学生が感じてしまうかもしれません。そのため、授業中や終了後に全体に対して「何か困っていることはありませんか」「いつでも話を聞きますから、いつでも言ってください」と自然に伝えておくと、学生が相談しやすくなるのではないのでしょうか。
事例B.
学会発表に向けて院生の発表練習を行っていました。その院生は初めての学会発表で緊張しており、まとまっていない原稿を必死に読み上げていました。発表後、教員は「全然ダメ。意味がわからない」「あと一週間しかないのに、君、どうするつもり？」「このままでは、私の指導能力が疑われる」「研究室のレベルを下げるような発表はしないように」と言い、教室から出ていきました。
【院生はどのように感じるでしょうか？】
事例から初めての学会発表で緊張していることがわかります。また、本番が間近に迫っており、スライドや原稿も急いで作成し、先輩などに確認してもらう時間もないまま、練習を迎えたかもしれません。さて、教員の声かけは自分の感情をぶつけているものであり、指導ではありません。この声かけでは、院生はますますパニックに陥り、発表の準備が手につかないだけでなく、精神的にも絶望的な気持ちになっているでしょう。
【教員は言動をどのように改めたらいいでしょうか？】
発表を聞いて怒りを感じていたら、教員はまず「準備、お疲れ様でした。どこを直したらもっとよくなるか、私も考えてみるので、一度休憩にしましょう」と伝え、休憩することで冷静になりましょう。そして、具体的にどこを直すと良くなるのか、落ち着いて伝えられるように考えをまとめましょう。なお、一度で直きれない場合は、予め学生に何回かやり取りし、修正していくことを説明すると、学生も安心して修正に取り組めると思います。



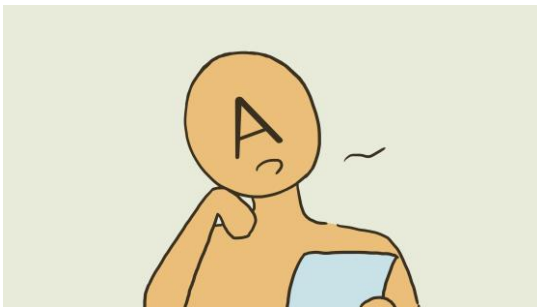
事例3 課題レポートについての悩み

1



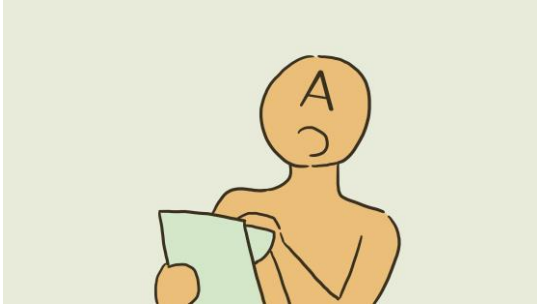
必修科目のA先生ですが、与えられた課題についてレポートを書いて持っていっても、A先生は「ここはダメ。書き直して来週持って来なさい」と具体的な指摘はありません。

2



仕方なく、自分で考えて直して持っていくと、「あ～あ、ダメだなあ、情けない。理解していない。」と言って、「また、書き直し！内容のあるものを書いて持って来なさい！」と返されました。

3



また直して、見てもらいに行くため息をつきながらパラパラとめくって「私(僕)の時間を無駄使いさせている。」「やる気がないのか、能力がないのか、どっちだろう？」と言われました。

4



「私、真面目に一生懸命にやっています。」と返事すると、「じゃあ、能力がないということね」と笑われました。

【コメント】

事例3 課題レポートについての悩み

相談員として相談を受けてきました 加藤 千賀子



◆ ご覧になられた皆さんは、この事例についてどう思われましたか？

「こんなことたいしたことない」

「学生がちゃんとやってないから言うべきだ」

「自分が学生の時はもっと厳しかった」

「今の学生は甘やかされてるから勉強してないし」

「こんなことができないと社会では通用しない」

「言われなければやれない学生が増えているから言うべきだ」

などと思われた方もみえると思います。

◆ では、このように言い続けたら、学生は変わると思われますか？

「言っても言っても変わらない」と嘆いてみえる方もいると思います。このように言い続けられた学生はどうなっていくのでしょうか。頑張ろうと思ってできる学生もいると思います。しかし、「理解してない」「やる気がない」「能力がない」などと言われ続けていると、ボディブローがきいてきて多くは精神的にまいってしまいます。眠れなくなり、食欲もなくなり、大学に行こうと思っても起きられなくなる学生もいます。

学生にとってマイナスにしかになっていない指導を変えてみませんか。



◆ 人はどのように成長するのでしょうか？

これまでは「教えられたように教える」という感じで、できないことを言われ、否定的な指導が多かったと思います。この事例では、なんの指導もなく、書き直しをさせ、それを「ダメだ」「情けない」と言い、「能力がない」「やる気がない」と学生を不安にさせ、ショックに陥れています。

レポートの修正する箇所を具体的にどうしたらいいか指導し、次回にはできているところを見て、評価していくことが求められています。こういう指導の中で、学生は自分に自信を持って行動するようになっていきます。 過大な評価でも過小な評価でも、本人の成長にはなりません。適切な指導の中で、経験を積んで、経験から学び、学ぶ力を育てていく環境があれば成長していきます。大学は学生が学習・研究をしやすい環境をつくるのが大切です。

◆ 具体的にはどうしていったらいいのでしょうか？

指導する相手を尊重して接することが大切だと思います。この事例からわかることを以下に示します。

「否定から言うことをやめる」(ダメだなあ・情けない・理解していない…)

「冗談や軽蔑するようなことは言わない」(やる気がないのか能力がないのか…)

「人を傷つけることは言わない」(能力がないということね)

最初から何でもできる人はいません。昔は「一を聞いて十を知れ」と言われて育てられてきました。今はできていること、良い点を認めて伝え、そして、改めることを具体的に言い、教えていくことが求められます。

さあ、これから学生に、どう声をかけますか？

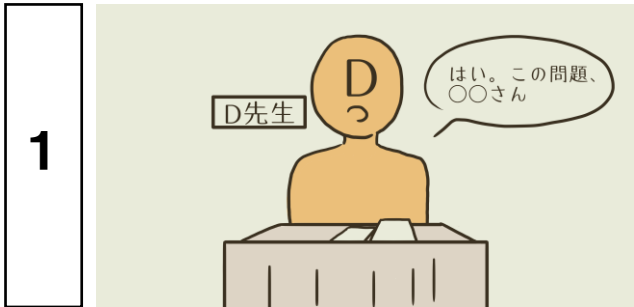
✓ チェックポイント

- できているところをまずは評価しましょう
- 具体的に学生がわかるように丁寧に説明しましょう
- 冗談はやめましょう

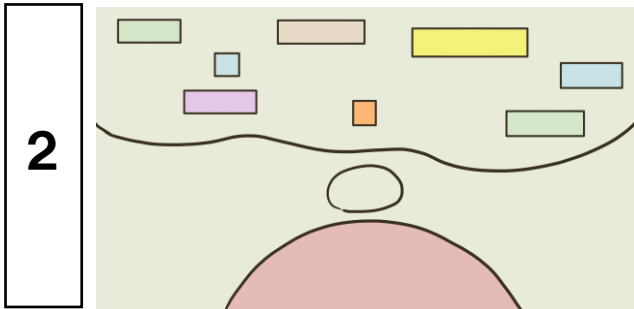




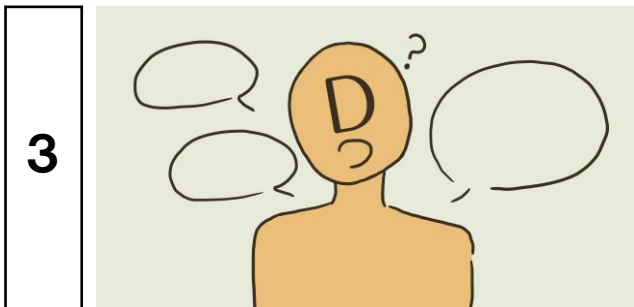
事例4 授業中に質問にすぐに返答できない学生さん



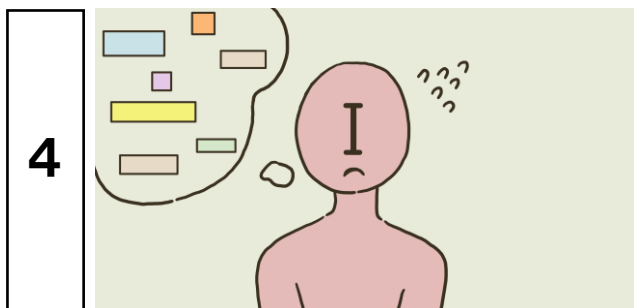
D先生は授業中に学生によく質問します。



私は、その質問の答えを頭の中で文章化してし
か答えられません。

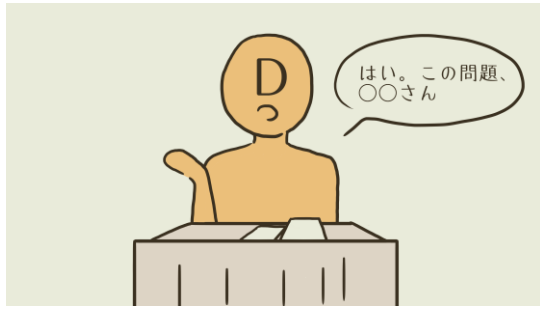


ところが、D先生は「君、質問の意味が分かって
ないの?」「なんで返事しないの?」と私が答え
るまでは待ってくれません。「黙っていたら、質
問を聞いていないのか、分からないのか、みん
な待っているんだから」と急かします。



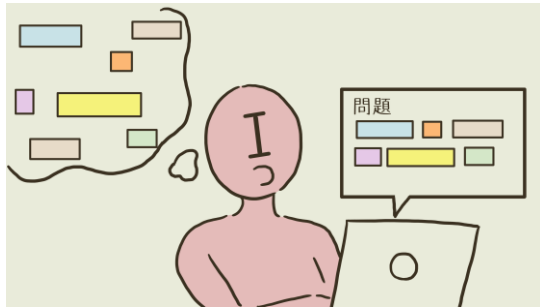
私は、余計に混乱してしまつてうつむいて泣き
そうになります。

5



その次の時間になるとまた先生は、「今回は質問に答えなかったから今日は答えてもらうよ。答えなかったら成績が悪くなるよ」と言って、また私をあてます。

6



レポートだったら私は、100点満点の答えが出せます。即答できないということを理解してほしいです。どうしたらいいのでしょうか？

【コメント】

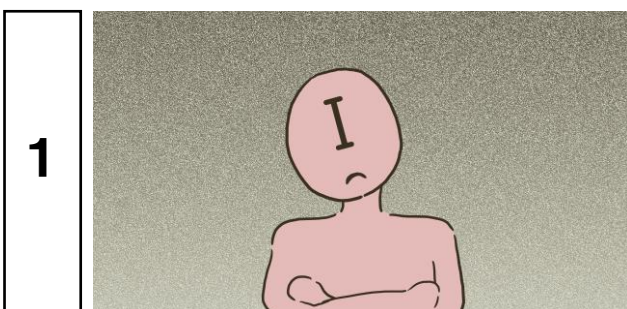
事例4 授業中に質問にすぐに返答できない学生さん

居場所なあなあスタッフ
稲別 尚子

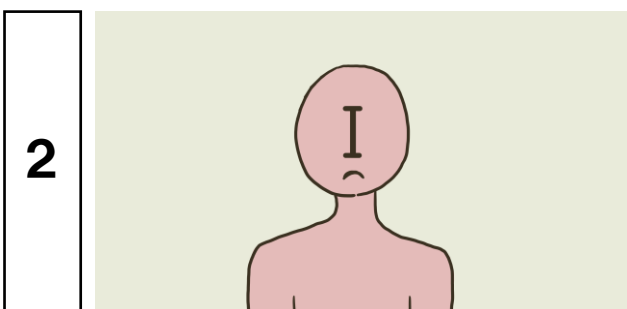


◆ 先生方だけでなく、学生さんも色々な方がいます

まず、学生さんが、先生の質問にうまく答えられず、質問に答えられないことを責められて、精神的に追い詰められていく様子がうかがえます。きっと、この先生は、学生さんのために思って、一方通行のつまらない講義ではなく、あえて「質問」を多くした対話型の授業を工夫しておられるのだと思います。口頭で答えるのが得意な学生さんや、長時間じっと座っているのが苦手な学生さんにとっては、のぞましい授業形式なのかもしれませんが、学生さんの中には、さまざまなタイプがあり、自分の気持ちや考えを言語化するのが苦手な方がおられます。



そして、**質問に即答できないから、何も考えていない、何も理解できていないのではなく、頭の中では、授業の内容を深く理解をしようと努力し、「これはどう意味なのだろう？」とじっくりと考えている学生さんがいます。**



傍からは一見、何も考えていないように見えるのですが、深く考え込んでいるときには、微動だにできません。まずは、そのようなタイプの学生さんがいるということを知っていただきたいです。

【参考】居場所なあなあはNPO NAAHが行っている事業です。詳しくは26ページをご覧ください。

「音読や人前での発表はとても緊張する」という方は、すぐに心臓がドキドキして声が震えるものです。私も頭の中で考えていることをちゃんと話そうとすればするほど、うまく言えず、後から後悔することが多いです。特に授業中によく質問する先生だったり、ちゃんと答えないとすぐに怒る先生の授業のときには、この緊張は倍増します。その上うまく答えられないことを皆の前で責められたら、泣きそうになりますよね。

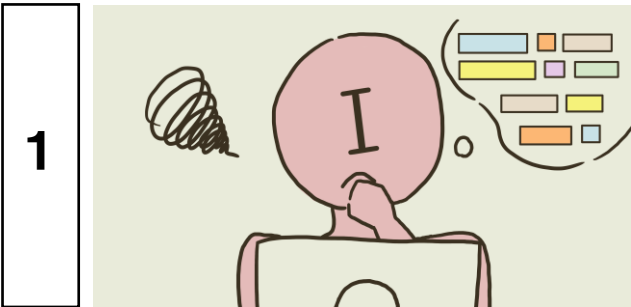
まずは、**大学の先生方に、このようなタイプの学生さんがいること、そして、質問に即答できないことや、表情や言葉で表現ができないことが、理解力の無さを意味するのではないことを知っていただきたいです。**

◆ 具体的にどのように対応するのが良いのでしょうか？

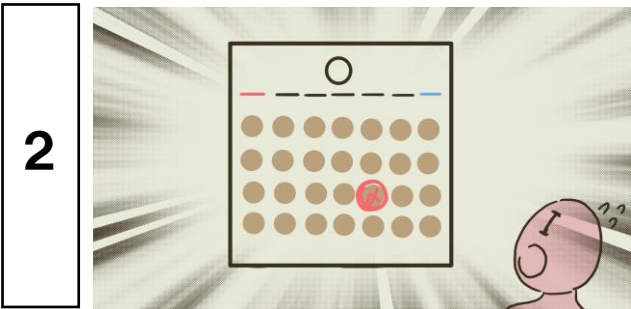
質問にとまどう様子が見えたとき、**無理にあてない、無理に答えさせない、後日レポートの提出に置きかえるといった対応**をとっていただければ本人は落ち着いて勉学に励めると思います。



事例5 口に出して返答はできるが、 文章化がとても苦手な学生さん



僕はレポートは、書けません。頭の中で分かっているのですが、なぜか文章にするのは苦手です。



いつもどうしたらいいのか迷っていると締め切りが過ぎてしまいます。どんどんレポートが溜まって、このままでは単位を落としそうです。どうすればいいでしょうか？



【コメント】

事例5 口に出して返答はできるが、 文章化がとても苦手な学生さん

居場所なあなあスタッフ 稲別 尚子

◆ 学生になんと声をかけますか？

この事例では、頭の中では理解できているのに、文字に表すことが苦手で、レポートが書けずに困っておられます。

このような場合も、**大学の先生には、この学生さんが毎回レポートが遅れているのには、何か理由があるのかもしれない？レポートにまとめるのが極端に苦手な特性があるのかもしれない？と考えてみていただきたい**と思います。

「レポートの提出が遅れる」＝「さぼっている」と決めつけ、本人を責める前に、「**レポートが遅れているようだけど、だいじょうぶかな？レポートの書き方がわからないかな？なにか困っているかな？**」と考えるみていただきたいです。

◆ 学生の困りごとに対して一緒に考える姿勢

学生さんを責める気持ちをおさえ、本人の困りごとの対して一緒に考える姿勢になってくだされば、ほかの方法が見つかるように思います。たとえば、**スマホの音声入力を利用したり、試験では、面接による口頭試問でも可能という配慮**があれば、科目履修が可能になると思います。

◆ 特性や困りごとに合わせて配慮をお願いします

事例4、事例5のタイプの学生さんは、発達障がいの方の場合にもみられる特徴です。ただ、障がいであれば、こういった即答できないことやレポートが書けないことに代替措置を考えるが、**障がい者でなければ認めないということではなくて、学生さんの個性をみとめてサポートする方向での教育を行っていただきたい**ことをお願いいたします。



【参考】「居場所なあなあ」について

「居場所なあなあ」はNPO NAAHが平成30年度から大阪市ボランティア活動振興基金からの助成を受けてはじめた事業であり、今年度(令和5年度)で6年を迎えます。NAAHではこれまで学校、大学関係のハラスメントに関わる多くの相談を受けてきましたが、その中で発達障がいのある学生さんたちが様々な困難な状況に陥り、疎外され、傷つき、改善を求めていることを知りました。

発達障がいのある学生さんたちが楽しく生きがいを感じる教育環境は、すべての学生さん、そして教職員の人たちにとっても快適な学習・教育・労働環境であることは間違いありません。

ハラスメントのない環境づくりを目標として、今まで「居場所なあなあ」では特別企画として外部講師の先生をお招きし、発達障がいや学生支援関連等のテーマで講演や学習会を開催してきました。また、定期的に開催している居場所「なあなあ」では、テーマ決めない「おしゃべり会」を行っています。まず、参加者同士が自己紹介をし、そのあとそれぞれの日常や悩み事・相談事を話し合っています。最近では、参加者が話したいことについてパワーポイントを使っての発表も行っています。参加者は大学生だけでなく、高等専門学校生・専門学校生や進学を控えた高校生や社会人、それぞれの保護者や教職員、その他若者支援に関わる仕事の方の参加も多いです。今までの活動について知りたい方は、右のQRコードから「居場所なあなあ報告書」をご覧ください。

居場所「なあなあ」について

みなさんは毎日の学校生活の中で、お困りのことはありませんか？この居場所「なあなあ」は、普段なかなか相談相手の見つからない方や、日々の困りごとをお持ちの方に、気軽にお越し頂き、ほっと安心してもらえる場所にしたいと考えています。

居場所なあなあは、学生さん、若者のみなさんを中心に、ご家族、学校の教職員、支援機関の皆さまなど、いろいろなお立場の方にもご参加いただけます。ほっと安心できる居場所を探しておられる方がおられましたら、ぜひご案内ください。

- ・毎月1回開催（開催しない月もございます）
- ・参加申込、お問い合わせ：naanaainfo@sunao8.com



PDFファイル



【居場所なあなあ報告書】



NPO NAAHでの取り組みのご紹介



研修教材としてDVD教材の制作・販売をしております。

◆『みんなでつくろう、ハラスメントのないキャンパスを』



(25分、テキスト付)

第1話:やる気がないと決めつけないでください！

授業態度の悪い学生たち。学生相談室をのぞいてみると、それぞれの理由がありました。

第2話:どうして機嫌が悪いの？

いつも不機嫌な志賀先生。ある日、学生たちのふとした行動が、彼の心を明るくしました。

第3話:研究レベルを引き上げないで！もう疲れました

教育熱心な新田先生。大学院生の鈴木さんに期待しています。一方の鈴木さんは、学生相談室で思いつめた様子。どうしてしまったのでしょうか。

◆『新 なくそう、防ごう、気づこう アカデミック・ハラスメント 2016最新版』



(18分、テキスト付)

第1話:真面目な青木先生

授業中、メモでおしゃべりをする女子学生達に、青木先生の怒りは爆発する。

第2話:関西出身の井上教授

口癖は「アホ」。学生が書いた授業評価を見て落ち込み、同僚に相談する。

第3話:教員になりたての安田准教授

試験の点数に納得できない学生と、口論になってしまう。

3つの事例はそれぞれ2部構成になっています。前半が問題の発生、後半がその問題の解決です。さて、3人はどのように対処するのでしょうか？

◆『アカハラで悩んだとき ~あなたならどうする?~』



(15分)

教員の学生や大学院生に対するアカハラについては、現在では多くの大学で対策が整備され解決が図られるようになってきました。

しかしながら、その対応は様々な壁にぶつかっています。その一つに被害からの回復があります。ここでは、アカハラに悩んだ場合、被害者はどのような行動をとるのか、典型的な3つの場合をご紹介します。



研修教材としてオンデマンド教材の制作・販売を行っております。

NEW

『大学で起こるセクシュアルハラスメントを防止するために』主に大学向け

【収録内容】

- ・セクシュアル・ハラスメントについて
- ・大学で起こったセクハラ事例
- ・セクハラをなぜ起こすのか
- ・飲酒に注意！
- ・セクハラを防止するために
～大学で共通認識を持つようにしましょう～
- ・性的少数者への差別や偏見をなくそう
- ・セクハラを防止するために～セクハラが起こりにくい環境づくり～



(約30分、mp4ファイル)

◆『アカデミック・ハラスメントにならない指導』主に大学向け

【収録内容】

1. アカデミック・ハラスメントとは
指導の場面ごとの事例（大人数授業・個別指導、LINEなど）
ハラスメントを受けた学生の心身への影響
2. ハラスメントにならないように～指導で気をつけること～
教育関係者のコミュニケーションの基本
3. コロナ禍2年目で起こっている～学生がアカハラと感じていること～
ハイブリッド教育をより良いものにするために



(約25分、mp4ファイル)

◆『ハラスメントのない快適な看護学校づくり』看護専門学校対象

【収録内容】

第1話：学生には、平等な指導を
坂井さんは実習記録をどんなに直しても、ダメだしばかり。
一方、多田さんは半分しか埋まっていませんでしたが、褒められていました。

第2話：教育者としての適切な言動を
林先生はやる気を出させるために叱咤激励をしているつもり
でしたが、主任の鈴木先生と話しているうちにあることに気が
つきました。

第3話：いがみ合いはやめましょう
忙しい佐藤先生の代わりに学生の質問に答えた久米先生。す
ると、佐藤先生は激怒してきました。どうしたのでしょうか。



(約25分、mp4ファイル)

◆『学内のアカハラ・パワハラを防止する方法』 主に大学向け

【収録内容】

1. アカデミック・ハラスメントについて
アカハラの事例
ハラスメントにならない指導をするために
- 4つの事例を通して考えてみましょう -
2. パワー・ハラスメントについて
大学で起こっているパワーハラスメントの例
パワーハラスメントとは
パワハラはなぜ起こる？パワハラが広がっていく仕組み
3. 2Rコミュニケーションの推進
相手の話を落ち着いて聞きましょう



(約35分、mp4ファイル)

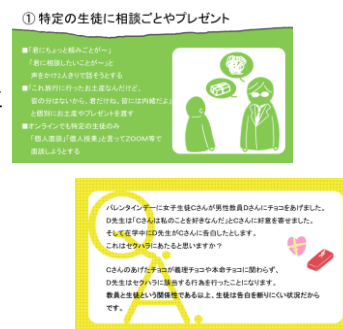
◆『教育環境におけるセクシュアル・ハラスメントを未然に防ぐために』 中高大学向け

【収録内容】

1. 教育環境で起きているセクシュアル・ハラスメントとは
2. セクシュアル・ハラスメントを未然に防ぐために気をつけること
セクシュアル・ハラスメント事例と気をつけるポイントの紹介
「これってセクハラ？」「怖いな」と感じたら
3. みんなで考えてみよう～これってセクハラ？ Q&A～
教育に従事する者として留めておくべきこと

※補助テキスト付き

(視聴対象：教職員、監督・コーチなどの指導者、生徒・学生)



(約20分、mp4ファイル)

◆『部活動におけるハラスメント防止』 高校・大学向け

【収録内容】

1. 部活動におけるハラスメントとは
奇妙な習慣/無理な練習・大会の出場/暴言/体罰/
セクシュアル・ハラスメント・わいせつ/行為者
(加害者)を擁護
2. ハラスメントにあったら・周囲の方が見たり聞いたりしたら

水分補給をさせなかったり、体調が悪い学生を休ませなかったりしていませんか？また、叱咤激励のつもりで「文句があるなら帰れ」「指導するレベルじゃない」などと言っていないか？

(視聴対象：教職員、監督・コーチなどの指導者、生徒・学生、保護者)



(約15分、mp4ファイル)

YouTubeにて一部のオンデマンド教材をご視聴いただけます。
右のQRコードからご覧ください。





YouTube『NAAH教材チャンネル』にて動画教材を配信しています。

YouTubeでは大学等、教育機関などでお使いいただけるハラスメント防止啓発動画を配信しております。代表的なシリーズを紹介いたします。

▶『ぺんぎん先生とヤギくん』シリーズ

(大学・大学院向け。1話3分程度。全108話)

▶教育環境におけるセクハラ防止啓発動画『一旦、確認しときませんか?』

(学生対象)

YouTube



詳しくはQRコードもしくはYouTubeにて「NAAH教材チャンネル」を検索!

URL : <https://www.youtube.com/channel/UC2IHTm68lj4Yq8sWfDpSjkw>

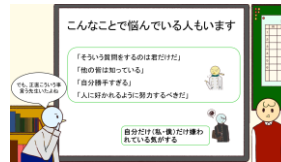
◆『令和時代の教員育成 Vol.1ーハラスメントのない教育環境のためにー』

【収録内容】

～はじめに～

アカハラとは?

どうして、アカハラをするのか?



シリーズ1. まず相談

なぜ我慢してしまうのか?

このまま我慢していたら

相談しましょう＝助けを求める第1歩

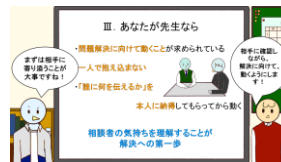


シリーズ2. 相談を受けた時

あなたが友人なら

あなたが家族なら

あなたが先生なら



※動画と合わせてご覧いただける冊子がございます。公式HPよりご覧ください。

◆『令和時代の教員育成 Vol.2ー気づこう、ハラスメントー』

【収録内容】

シリーズ1. 気づこう、ハラスメント

大学の事例

振り返ってみよう

お便りコーナー



シリーズ2. ハラスメントに気付いたら

被害者の心情

弱い人だと決めつけないで

1人でも理解してくれる人がいると



※動画と合わせてご覧いただける冊子がございます。公式HPよりご覧ください。

『「イヤ」って言える?』という紙しばいの実演動画を配信しております。
この紙しばいは子ども（幼稚園、保育園から小学生）に向けて創ったもので、お話をしながら問いかけて、みんなで考え、発言するようにしてあります。

内容は「セクシャルハラスメントに遭わないように」また「自分の気持ちをちゃんと言えるように」「色々なヒトがいてもいいよね」という問いかけになっております。

先生方または図書館などで、読み聞かせする際に参考に
していただきたいと思ひます。

紙しばいの中で色んなことを問いかけていることで子どもたちと話ししながら、子どもたちが意見を言いながら進めていただきたいと思ひます。

実演動画『イヤッていえる?』は右のQRコードからご覧いただけます。
是非、ご覧ください。



★当会では紙しばいの貸し出しを行っております。

紙しばいの貸し出しを希望される方は、アカデミックNPO事務局（office@naah.jp）に
申し込みをお願い致します。





研修・講演を行っております。

NAAHでは、アカデミック・ハラスメントに関する啓発講演や、コミュニケーションスキルアップのための研修、問題解決のための専門相談員紹介など、様々な大学向け有料サービスを行っています。

啓発研修講演では、アカデミック・ハラスメント対策を具体的にお考えの大学等組織に対して、対面で啓発講演を行います。その他にもセクシャル・ハラスメント、デートDV、LGBTをテーマとした講演や部活の監督に向けた講演も受け付けています。オンラインでのライブ講演や録画によるプレゼンテーションなど、従来の対面型に加えて実施しております。また、NAAHの講師が貴学に出向いて行う、相談員を対象とした講習会も行っております。



相談支援活動を行っております。

NAAHでは、アカハラの相談をお受けしております。また、大学で対応にお困りの方もご相談頂けます。お申込みは電話、Email、手紙または公式HPの“相談受付フォーム”よりお願い致します。

相談の際はいずれかの方法でお申し込みください。

- ▶ TEL: 06-6353-3364
- ▶ Mail: soudan@naah.jp
- ▶ 公式HP: <http://naah.jp/index/>
- ▶ 手紙郵送先:
〒530-0044
大阪市北区東天満2丁目9-4 千代田ビル東館507号室
アカデミックNPO事務局



【相談受付フォーム】

おわりに

さて、大学で起こっている5つの事例についてさまざまな視点からハラスメントを防止するための取り組みや解決方法について考えてみました。問いかけを通して「解決に向けて自分ができること」について考えるきっかけになりましたら幸いです。また、大学の教職員向けハラスメント研修等で、事例についてグループディスカッションをしてみてください。普段の困りごとを共有したり、2Rコミュニケーションの実践方法について色々な視点や声かけが考えられたりすると思います。

是非、より良い教育を行うことによって、誰にとっても快適な学習・研究・労働環境を一緒につくっていきましょう！

制作 特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク
(NPO NAAH)

イラスト 大藤・P・ヒロミ

制作日 2023年9月30日

本書は、公益財団法人 大阪コミュニティ財団の助成により作成しました。

本書の全部または一部の複写・複製などを禁じます。これらの許諾については当会までご照会ください。



転載または複製することは、
固く禁じております。
制作日：2023年9月